



### (3) 新規事業

#### ■ 平成 26 年度

- ・ 多文化共生市民サポーター事業（まちづくり推進課）

#### ■ 平成 27 年度

- ・ 通訳クラウドサービス活用事業（情報企画課）

## 5 重点プロジェクトの状況

### プロジェクト1

### 子どもが主役の国際理解・国際交流事業

#### ■ プロジェクトのねらい

子どもの頃から外国の文化に触れたり、国際交流の経験をしたりすることで、人権意識や国際感覚を高めることが期待されます。本市の未来を担う子どもの多文化共生に対する意識を醸成するため、児童・生徒を対象にした国際理解・国際交流の取り組みをさらに強化します。

#### ■ 事業の概要

- ・ 国際理解を深めあう交流会や講座など行事の開催
- ・ 学校教育を通じた国際理解の推進

#### ■ 個別事業

##### 1) 子ども向け国際理解講座開催事業（大垣国際交流協会）

今年度方針	事業継続				
進捗状況	H23	H24	H25	H26	H27
	運用	継続	拡充	継続	継続
事業概要	<p>・本市の未来を担う子どもの多文化共生意識を醸成するため、国際理解・国際交流に資する講座を開催します。</p>				
平成26年度	<p>&lt;計画&gt;</p> <p>・今年度も引き続き多様なテーマを切り口とした国際理解講座を次のとおり開催します。</p> <p>(1) 子どもIT国際理解講座(6月)</p> <p>(2) 子ども料理国際交流講座(9月)</p> <p>(3) 子どもレクリエーション国際交流会(2月)</p> <p>&lt;実績&gt;</p> <p>(1) 子どもIT国際理解講座</p> <p>① 日時:平成26年6月14日(土)</p> <p>② 場所:大垣市情報工房</p> <p>③ 参加:18人(日本8人、ブラジル6人、スリランカ3人、チェコ1人)</p> <p>④ 内容:日本人と外国人の児童がiPadのアプリケーションソフトを使って文化紹介をテーマにスライドショーを作成しました。</p>				

平成 26 年度	<p>参加者の国の文化をそれぞれ紹介することで、お互いの国の事情について理解が深まりました。</p> <p>(2) 子ども料理国際交流講座</p> <p>① 日時:平成 26 年 9 月 28 日(日)</p> <p>② 場所:大垣市スイトピアセンター</p> <p>③ 参加:親子 24 人 (日本 16 人、ブラジル 7 人、チェコ 1 人)</p> <p>④ 内容:日本人と外国人の親子が、日本料理とフィリピン料理をつくりながら交流を図りました。また、フィリピン人を講師として、フィリピンの食べ物や生活習慣についてスライド写真を使った文化紹介を行い、外国文化の理解を深めました。</p> <p>(3) 子どもレクリエーション国際交流会</p> <p>「つくって☆英語で☆日本語で☆あ・そ・ぼ」</p> <p>① 日時:平成 27 年 2 月 7 日(土)</p> <p>② 場所:大垣市スイトピアセンター</p> <p>③ 参加:延べ 565 人</p> <p>④ 内容:日本人とイギリス人を講師に、未就学児から小学校低学年までの親子を対象に、英語と日本語による「工作・あそび・おはなし」の機会を提供しました。英語と日本語によるロケット工作や動物の鳴き声を英語で学ぶ、体を動かしながら英語の歌を歌うなど、レクリエーションの要素を取り入れながら英語を学ぶことで、外国語や文化について理解を深めました。</p>
平成 27 年度	<p>&lt;計画&gt;</p> <p>・今年度も引き続き多様なテーマを切り口とした国際理解講座を次のとおり開催します。</p> <p>(1) 子ども外国語読み聞かせ講座(6 月)</p> <p>(2) 子ども地球探検研修講座(8 月)</p> <p>(3) 子ども国際理解ワークショップ(11 月)</p>

## 2) 国際理解教育推進事業 (学校教育課)

今年度方針	<b>事業継続</b>				
進捗状況	H23	H24	H25	H26	H27
	運用	継続	継続	継続	継続
事業概要	・国際理解教育推進校において、国際理解につながる教育を推進します。				
平成 26 年度	<p>&lt;計画&gt;</p> <p>・中川小学校で、次の活動を行います。</p>				

<p>平成 26 年度</p>	<p>(1)ファンタイム(Fun Time)</p> <p>毎日、昼休みの 10 分間を利用して ALT(外国語指導助手)と国際交流委員会児童、担当教諭による全校テレビ放送を行います。内容は、クイズ形式による英単語の紹介など、楽しく英語に親しむものとしします。</p> <p>(2)フレンドリータイム</p> <p>総合学習の時間に国際交流活動の取り組みを行います。また年 1 回外国のお客様を招待して、総合学習で学んだことを英語で伝える時間を設けます。</p> <p>&lt;実績&gt;</p> <p>(1)ファンタイム(Fun Time)</p> <p>挨拶やクイズなど英語での簡単なやりとりを通して、興味や関心、聞く力を高めました。</p> <p>(2)フレンドリータイム</p> <p>「ふるさとのよさを外国の人に伝える」と「ふるさとへの想いを深める」を追究し、その成果を外国のお客様を招待して伝えました。</p>
<p>平成 27 年度</p>	<p>&lt;計画&gt;</p> <p>・引き続き中川小学校において次の活動を行います。</p> <p>(1)ファンタイム(Fun Time)</p> <p>毎日、昼休みの 10 分間を利用して ALT(外国語指導助手)と国際交流委員会児童、担当教諭による全校テレビ放送を行います。内容は、クイズ形式による英単語の紹介など、楽しく英語に親しむものとしします。</p> <p>(2)フレンドリータイム</p> <p>総合学習の時間に国際交流活動の取り組みを行います。また年 1 回外国のお客様を招待して、総合学習で学んだことを英語で伝える時間を設けます。</p>

■ プロジェクトのねらい

本市で暮らすために必要な情報を体系的に整理するとともに、来日して間もない外国人市民でも地域のルールやマナー、各種制度について理解できるよう、「暮らしの情報ガイドブック」を多言語で編集・発行します。

■ 事業の概要

- ・関係団体・外国人市民を含めた編集委員会の設置
- ・「暮らしの情報ガイドブック」の企画・編集・発行

■ 個別事業

1) 外国人市民向け「暮らしのガイドブック」作成事業（まちづくり推進課）

今年度方針	事業完了				
進捗状況	H23	H24	H25	H26	H27
	運用	継続	実施	—	—
事業概要	・大垣市に転入してきた外国人市民に対して、ごみ出しや子育てなど基本的な生活情報をとりまとめた「暮らしの情報誌」を、外国人及び日本人市民の意見を反映させながら作成します。				
平成25年度	<実績> ・「外国人市民のための暮らしのガイドブック(ポルトガル語・中国語・英語版)」を次のとおり作成しました。 (1) 市民委員:6人(外国人4人、日本人2人) (2) 意見交換座談会:年5回開催 (3) 完成3月、配布4月から (4) 配布先:転入手続きした外国人市民、HIRO 学園ほか (5) 発行数:2,200部				

## プロジェクト3

## 外国人市民の防災対応力向上事業

### ■ プロジェクトのねらい

外国人市民が災害発生時に冷静かつ迅速に対応できるよう、市民向けの防災マップの内容をベースにした多言語版の防災マップ&避難マニュアルの作成を進めるとともに、外国人市民を対象とした防災訓練の実施や地域における防災訓練に外国人市民の参加を促すなど、外国人市民の防災に対応する能力を高めます。

### ■ 事業の概要

- ・ 多言語版防災マップの作成
- ・ 外国人市民参加による地域防災訓練の開催
- ・ 外国人市民向け災害対策講習の実施

### ■ 個別事業

#### 1) 外国人市民向け「防災ガイドブック」作成事業（まちづくり推進課）

今年度方針	事業完了				
進捗状況	H23	H24	H25	H26	H27
	運用	継続	実施	—	—
事業概要	<p>・災害時にとるべき行動や避難所での過ごし方、地域のハザードマップなどを掲載した外国人市民向け「防災ガイドブック」を、外国人及び日本人市民の意見を反映させながら作成します。</p>				
平成25年度	<p>&lt;実績&gt;</p> <p>・防災情報を含む「外国人市民のためのくらしのガイドブック(ポルトガル語・中国語・英語)」を次のとおり作成しました。</p> <p>(1) 市民委員:6人(外国人4人、日本人2人)</p> <p>(2) 意見交換座談会:年5回開催</p> <p>(3) 完成3月、配布4月から</p> <p>(4) 配布先:転入手続きした外国人市民、HIRO 学園ほか</p> <p>(5) 発行数:2,200部</p>				

2) 外国人市民防災訓練開催事業（まちづくり推進課）

今年度方針	事業拡充(県との連携による事業規模の拡充)				
進捗状況	H23	H24	H25	H26	H27
	検討	実施	継続	継続	拡充
事業概要	<p>・災害経験の少ない外国人市民への防災意識啓発を目的に外国人市民向け防災訓練を開催します。</p>				
平成 26 年度	<p>&lt;計画&gt;</p> <p>・岐阜経済大学を会場とし、同大学の留学生等にも企画・運営に関わってもらえるよう、大学連携を図りながら、防災訓練を開催します。</p> <p>&lt;実績&gt;</p> <p>・昨年度に引き続き、岐阜経済大学の中国人留学生に企画段階から関わってもらいながら防災訓練を開催しました。また、今年度は HIRO 学園の協力を得られたことで、参加数が昨年度よりも増加しました(昨年度 42 人)。</p> <p>(1)日時:平成 26 年 10 月 11 日(土)</p> <p>(2)場所:岐阜経済大学</p> <p>(3)参加:54 人(ブラジル 17 人、中国 13 人、フィリピン 12 人、アメリカ 2 人、日本 10 人)</p> <p>(4)内容:防災講習・実技訓練(心肺蘇生・水消火器・担架組立・煙幕テント)・炊き出し(ハイゼックス米・中国・フィリピン料理)</p>				
平成 27 年度	<p>&lt;計画&gt;</p> <p>・今年度は、県が「災害多言語支援センター設置運営訓練」を大垣市で行うため、県と連携することで、内容の充実を図ります。</p>				

## プロジェクト4

## 多文化共生の地域づくりコーディネーター事業

### ■ プロジェクトのねらい

生活情報の提供だけにとどまらず、外国人市民と地域社会とのつながりを継続的に構築するため、「多文化共生の地域づくりコーディネーター」制度を設立します。

### ■ 事業の概要

- ・ 地域組織への翻訳・通訳の支援
- ・ 多文化共生の地域づくりコーディネーター養成講座の開催
- ・ 多文化共生の地域づくりコーディネーターの認定・活動支援

### ■ 個別事業

#### 1) 多文化共生市民サポーター事業（まちづくり推進課）

今年度方針	事業拡充(派遣先拡大による事業規模の拡充)				
進捗状況	H23	H24	H25	H26	H27
	検討	検討	検討	実施	拡充
事業概要	<p>・外国人市民と地域をつなぐ役割を担う人材を育成するとともに、こうした人材を核として、外国人市民が抱える言葉の壁や文化の違いから生じる様々な課題に対して、市民の活力を生かした解決を図ります。</p>				
平成26年度	<p>&lt;計画&gt;</p> <p>・多文化共生市民サポーター制度を新たに創設し、学校等からの要請に応じて市民サポーターを派遣する仕組みをおおよそ3年かけて構築します。</p> <p>・事業1年目となる今年度は、荒崎小1校と放課後支援教室に市民サポーターを派遣します。</p> <p>(1) 荒崎小</p> <p>① コーディネーター1人配置</p> <p>② 市民サポーター7人派遣</p> <p>(2) 放課後支援教室</p> <p>① 市民サポーター7人派遣</p> <p>&lt;実績&gt;</p> <p>(1) 荒崎小</p> <p>① コーディネーター配置:1人(退職教員)</p>				

<p>平成 26 年度</p>	<p>② 市民サポーター派遣:9人(大垣国際交流協会日本語指導ボランティア5人、退職教員2人、学生1人、中国人保護者1人)</p> <p>③ 支援児童:15人</p> <p>④ 派遣時期:6月～3月</p> <p>⑤ 成果</p> <p>荒崎小からは、「市民サポーターが加わることで、これまでよりもきめ細かな支援が可能になり、外国人児童の日本語能力が大きく伸びた」、「市民サポーターの関わりによって外国人児童の学習意欲が高まった」との高い評価を受けました。</p> <p>(2)放課後支援教室</p> <p>① 市民サポーター派遣:24人(学生18人、大垣国際交流協会日本語指導ボランティア5人、退職教員1人)</p> <p>② 支援児童:43人</p> <p>③ 派遣時期:6月～3月</p> <p>④ 成果</p> <p>岐阜経済大学と連携し、同大学マイスター倶楽部及び徳永ゼミの学生が入替わりで活動しました。日本語が不足する外国人の子どもは、ひとりで学習することが困難な中、多数の学生を中心とした市民サポーターの関わりによって、落ち着いて学習する姿勢が見られるようになりました。</p>
<p>平成 27 年度</p>	<p>&lt;計画&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度に引き続き学校と放課後支援教室に市民サポーターを派遣します。</li> <li>・学校派遣は、昨年度の荒崎小のほか、江東小、中川小を含め5校程度に拡大して実施します。</li> <li>・放課後支援教室派遣は、昨年度協力を得られた岐阜経済大学徳永ゼミが、徳永准教授の転任によって今年度は協力が得られないため、新たな連携先を探します。</li> </ul> <p>(1)学校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① コーディネーター1人配置</li> <li>② 市民サポーター15人派遣(派遣校5校想定し、1校3人派遣)</li> </ul> <p>(2)放課後支援教室</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 学習支援サポーター15人程度派遣</li> </ul>



■ プロジェクトのねらい

小学校入学前の外国人の子ども及び保護者に日本語及び日本の学校生活について学ぶ機会を提供するとともに、小中学校に在籍する外国人児童・生徒に対する日本語学習等の指導をさらに推進し、学力の向上を図ります。

■ 事業の概要

- ・外国人の児童及び保護者に対する日本語や学校生活に関する就学前指導の実施
- ・外国人の児童・生徒に対する学習支援（時間外指導）

■ 個別事業

1) プレスクール「きらきら教室」開催事業（まちづくり推進課）

今年度方針	事業拡充(指導者増による指導内容の充実)				
進捗状況	H23	H24	H25	H26	H27
	検討	実施	拡充	継続	拡充
事業概要	・就学直前の外国人児童を対象に、日本語指導及び生活適応指導を行います。				
平成26年度	<p>&lt;計画&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象児童保護者に対して、きめ細かな事前説明を行うことで、より多くの参加を促すとともに、追跡調査等を通じ指導内容の見直しを図り、指導の充実を図ります。</li> </ul> <p>&lt;実績&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業開始3年目となり、保護者の事業認知度が上がったことや、プレススクールに参加意向を示さない保護者に対してきめ細かな対応を行ったことで、参加数は前年度の21人から30人に大幅に増加しました。</li> <li>・小学校への追跡調査や指導記録の提供により、小学校での事業認知度が高くなったことで、小学校日本語担当関係者が毎回集団指導を見学に訪れるようになり、学校連携が進みました。</li> </ul> <p>(1) 追跡調査(7月) 9校16人</p> <p>(2) 指導前語彙能力検査(10月) 平均69/100点、児童32人</p>				

平成 26 年度	<p>(3)事前説明会(11月) 参加者:児童 18 人、保護者 24 人</p> <p>(4)きらきら教室</p> <p>①巡回指導(12月～3月) 【内 容】日本語指導・生活適応指導 【訪問園等】17園 30人 【指導回数】7～21回/人</p> <p>②集団指導(12月から3月) 【内 容】児童:日本語・生活適応指導 保護者:学校生活等の説明会・個別懇談会 【回 数】5回 【参加者】児童 18人/回 保護者 27人/回</p> <p>(5)指導後語彙能力検査(3月) 平均 89/100点 児童 28人</p>
平成 27 年度	<p>&lt;計画&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加児童の増加に対応するとともに、指導のさらなる充実を図るため、指導者を3人から4人体制とします。</li> <li>・児童、保護者の双方に効果が期待できる集団指導について、参加状況の良くない保護者には直接面談するなど、より踏み込んだ対応を行うことで、集団指導の参加率(昨年度6割)の向上を図ります。</li> </ul>

## 2)「外国人児童生徒のための放課後支援教室」開催事業(まちづくり推進課)

今年度方針	事業継続				
進捗状況	H23	H24	H25	H26	H27
	検討	実施	継続	拡充	継続
事業概要	<p>・日本語能力が不十分であるために学習支援が必要な外国人児童生徒を対象に、学外で日本語指導を含めた補習指導を行います。</p> <p>※平成26年度に大垣国際交流協会からまちづくり推進課へ事業移管</p>				
平成 26 年度	<p>&lt;計画&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次のとおり開催します。</li> <li>(1)場 所:多目的交流イベントハウス</li> <li>(2)委託先:市民活動団体 CAPCO(カピコ)</li> <li>(3)内 容:週2回(火・金曜日) 【小学生】17:00～18:30 【中学生】19:00～20:30</li> </ul>				
平成 26 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次の2点について学校連携に向けた仕組みづくりに取り組みます。</li> </ul>				

	<p>(1) 学校が放課後支援教室の役割を認識し、支援が必要な外国人児童生徒を学校から放課後支援教室につなぐ仕組み</p> <p>(2) 学校と放課後支援教室が情報共有し、双方がその情報を指導に生かす仕組み</p> <p>&lt;実績&gt;</p> <p>(1) 学校連携の取組み</p> <p>① 案内チラシの配布(4～5月) 外国人児童生徒、担任教諭及び日本語担当教諭全員に配布</p> <p>② 学校訪問(5～1月):37回 担任教諭等と面談し、事業説明と学校連携への協力依頼</p> <p>③ 日本語担当者研修会での事業説明(1月) 小中学校の日本語担当者に対して事業説明・協力依頼</p> <p>(2) 学校の理解 学校訪問等を通じて学校への周知を図った結果、学級担任や日本語担当教諭等が教室見学に訪れるようになるなど、学校における放課後支援教室への理解が進みました。</p> <p>(3) 参加者の増加 学校での認知度が上がったことなどから、参加者は年度当初の20人から年度末には43人に増加しました。</p> <p>(4) 学校との連携 学習や家庭に問題を抱える児童生徒を中心に、放課後支援教室と学校が電話連絡等で情報共有しながら指導を行いました。</p> <p>(5) 市民サポーターの活用 参加者の増加に対応するため、岐阜経済大学の学生をはじめとした市民サポーターが入れ替わりで指導者として活動しました。(指導者:CAPCOメンバー10人、市民サポーター24人)</p>
平成 27 年度	<p>&lt;計画&gt;</p> <p>・次のとおり開催します。</p> <p>(1) 場所: 多目的交流イベントハウス</p> <p>(2) 内容: 週 2 回(火・金曜日)</p> <p>【小学生】 17:00～18:30</p> <p>【中学生】 19:00～20:30</p> <p>・学校連携による取り組み等によって参加者は増えてきましたが、会場までの送迎の問題があり、参加継続しない傾向があります。そこで、来年度に向けて外国人市民が多く居住する荒崎地区等での分室設置を検討します。</p> <p>・市民サポーターの指導者として昨年度協力を得られた岐阜経済大学 徳永ゼミが、徳永准教授の転任によって今年度は協力が得られないため、新たな連携先を探します。</p>

# 外国人児童生徒のための放課後支援教室 学校連携イメージ



学校



放課後支援教室

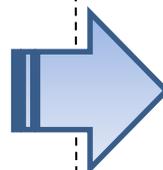
## 連携① 学校から放課後支援教室へつなぐ仕組み

### 【外国人児童生徒への指導課題】

- ・日本語能力が不足して授業についていけないので、指導の必要性を感じるが、学校では個別指導するまでは、とても行き届かない。



### 学校から教室紹介



### 【放課後支援教室の役割】

- ・学校指導が行き届かない外国人児童生徒の受け皿(週2回、多目的交流イベントハウスを会場、月謝:1,000円)
- ・日本語指導を含めた教科補習の支援



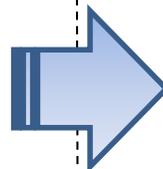
## 連携② 学校と放課後支援教室が情報共有し、双方がその情報を指導に生かす仕組み

### 【学校での指導課題】

- ・漢字がわかっていないようだ。
- ・1桁足し算はわかるが2桁足し算ができないようだ。



### 学校から情報提供



### 【情報提供に基づいた日本語指導を含む補習指導】

- ・漢字の補習指導
- ・2桁足し算の補習指導

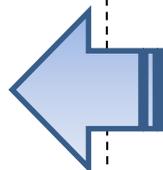


### 【教室からの提供に基づいた学校指導】

- ・補習指導の到達状況を踏まえた教科指導
- ・家庭環境・家庭学習の状況を踏まえた生活指導



### 教室から情報提供



### 【教室からの提供内容】

- ・補習指導の到達状況
- ・家庭訪問等懇談会を通じて把握した家庭環境・家庭学習の状況



# 外国人児童生徒に対する日本語教育施策の概要

	就学前	就学年齢(小中学校)
教育委員会	<p><b>外国人児童生徒の概況</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育園・幼稚園・幼保園在籍(4月現在) 105人</li> <li>・小中学校在籍(11月現在) 237人               <ul style="list-style-type: none"> <li>うち日本語指導必要 124人</li> </ul> </li> <li>小学校在籍 159人               <ul style="list-style-type: none"> <li>うち日本語指導必要 93人</li> </ul> </li> <li>中学校在籍 78人               <ul style="list-style-type: none"> <li>うち日本語指導必要 31人</li> </ul> </li> <li>・HIRO学園在籍(10月現在) 228人               <ul style="list-style-type: none"> <li>うち市内在住者 82人</li> </ul> </li> </ul>	<p><b>初期指導教室</b></p> <p>来日間もない等の理由で、日本語が初級レベルの児童生徒を対象に日本語指導  <b>【日時】月・水・木・金 9時～13時30分 【場所】西小 【指導者】3人(市費)【受講者】3人(H25.9現在)</b></p> <p><b>日本語指導教室</b></p> <p>初期指導教室修了児童生徒又は日本語初・中級レベルの児童生徒を対象に日本語指導  <b>【日時】毎日開設 【場所】市内12校 拠点校:東小、西小、江東小、荒崎小、西中、西部中 準拠点校:北小、静里小、中川小、小野小、興文中、江並中</b>  <b>【指導者】27人 内訳:正規教員3校3人、常勤・非常勤講師11校11人 指導補助員 市費8人、県費2人</b>  <b>【受講者】112人(H26.9現在)</b></p> 
まちづくり推進課	<p><b>プレスクール「きらきら教室」</b></p> <p>小学校入学直前の外国人児童を対象に年齢相当の語彙を獲得できるよう日本語等指導</p> <p><b>【時期】10月～3月</b>  <b>【方法】巡回指導(7～21回) 集団指導(5回)</b>  <b>【内容】語い能力検査(指導前後2回)</b>      日本語指導      学校生活適応指導      保護者への学校教育説明会      指導記録の小学校提供      追跡調査(小学校教諭と面談)</p> 	<p><b>多文化共生市民サポーター制度</b></p> <p>指導者人材(学習支援・母語支援)の派遣</p> <p>学校や外国人児童生徒放課後支援教室からの要請に応じて、学習支援、母語支援サポーターを派遣  <b>【派遣先】荒崎小、外国人児童生徒放課後支援教室</b>  <b>【学習支援サポーター】やさしい日本語でフォローしながら教科指導・補習指導</b>  <b>【母語支援サポーター】日本語初級レベルの外国人児童に対する通訳</b></p> <p><b>外国人児童生徒放課後支援教室</b></p> <p>指導者人材(学習支援・母語支援)の派遣</p> <p>日本語能力が不足することで学習が遅れがちになる外国人児童生徒に対して、学校連携しながら、日本語指導を含む補習指導  <b>【日時】火・金 小学生:17:00～18:30 中学生:19:00～20:30 【場所】多目的交流イベントハウス</b>  <b>【受講者】39人(H26.12現在) 内訳:指導者(業務委託団体)10人</b></p> <p><b>外国人学校(HIRO学園)への日本語講師派遣</b></p> <p>日本語による教育を受けていない外国人学校の児童生徒に対して、日本語学習する機会を提供するために大垣国際交流協会から日本語講師を派遣  <b>【日時】火・金 9時～11時(年96回)【対象】小学5年生、中学1、2年生、高校1年生【日本語講師派遣】1人</b></p>